

のばMAP

令和8年3月現在の情報



- ### 福祉施設・交流拠点
- 1 野庭地域ケアプラザ・野庭地区センター
 - 2 なごみのば
 - 3 よこはま港南地域療育センター
 - 4 のばこども家庭支援センター
 - 5 野庭風の丘
 - 6 すずかけの郷
 - 7 市営野庭住宅LSA(生活援助員)相談室



- ### お店など
- 19 ショッピングセンター (横浜市住宅供給公社 野庭事務所もこちら)
 - 20 パレット野庭店
 - 21 横浜野庭郵便局
 - 22 たまや野庭店、サンドラック野庭店
 - 23 ファミリーマート横浜野庭店
 - 24 FUJI 野庭店
 - 25 セブンイレブン日野九丁目店
 - 26 野庭サブセンター
 - 27 クリエイト港南野庭店
 - 28 セブンイレブン野庭団地前店

- ### 幼稚園・保育園
- 8 野庭幼稚園
 - 9 野庭聖佳幼稚園
 - 10 関東学院のびのびのば園
 - 11 野庭保育園
 - 12 野庭第二保育園
 - 13 SUNはるかぜ保育園
 - 14 港南はるかぜ保育園

- ### 学校(地域防災拠点)
- 15 野庭すずかけ小学校
 - 16 下野庭小学校
 - 17 旧野庭中学校
 - 18 丸山台中学校

188系統(わんぱく公園前経由) 上永谷駅前ゆき

保存版

野庭 にじいろさんご プラン

第5期 野庭住宅地区地域福祉保健計画(令和8年4月~令和13年3月)



~明るく住みよいあいさつのある野庭住宅を目指して~

「にじいろさんご」とは...

各自治会の2・4・1・6・3・5の語呂合わせで、未来への懸け橋である虹のように光り輝いてほしいという願いが込められています。

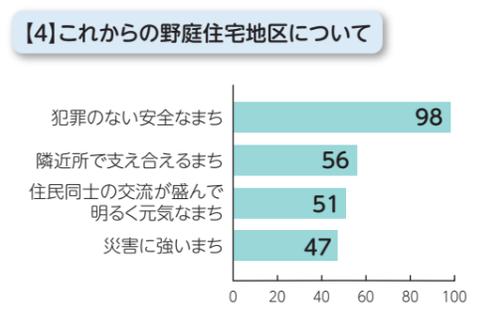
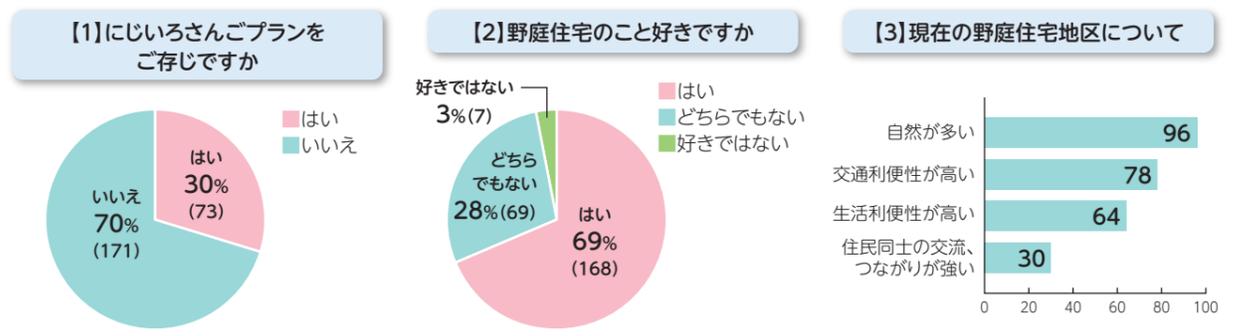
野庭住宅地区はこんな地域です

野庭住宅は、昭和47年から昭和50年にかけて建設された市営住宅です。総戸数は約3,300戸で、市営住宅という性格上、転入が多いという特徴があります。私たち野庭住宅地区では、近隣での気配りと、6つの自治会などのきめ細やかな活動で、支えあいの地域づくりを目指しています。建設より約50年が経過し、様々な課題が出てきていることから、地域の関係者で「未来につなぐ会」が発足され、野庭地区全体の再生に向けて取り組んでいます。



アンケート結果

令和7年4月~7月の各種自治会等催し時にアンケート実施 対象者: 催し参加者延べ約260名





みんななかよく 明るいのぼ

“緑あふれる野庭”から小学生が考案した野庭住宅地区社協のキャラクターです。

一人ひとりが無理なく出来ることをやろう!



目標1

住民の交流・ふれあいを大切にしよう

みんなで地域の行事に参加しましょう。
準備や運営に楽しみながら参加し、交流をしながら顔見知りを増やしましょう。

目標2

一人ひとりがつながり 支えあおう

ひとりの人、ひとつの団体だけでできることは限られています。
みんながつながることで、取組をより活発にし、見守り・支えあいの力を強めていきましょう。

ふるさとと呼べるまち

地域活動を未来に引き継ごう

- 季節ごとの行事開催
(七夕・祭り・ハロウィン・クリスマス会・餅つき・芋煮会・花火大会)
- テーマごとのコミュニティによる活動
(カラオケ・体操・ピンポン・園芸・ポッチャ等)
- 防災訓練・おはよう清掃・公園愛護会
- グランドゴルフ大会・カラオケ大会
- 寿会・高齢者サロン・各種ボランティア活動



防災・減災

自助と共助で災害に備えよう

自助

- 家族との連絡手段の確保
- 家庭備蓄(ローリングストック)や家具転倒防止対策
- 黄色いマグネットの活用

共助

- いっつき避難場所の確認・呼びかけ
- いざという時の声かけ
- 隣近所の安否確認
- 防災訓練への参加
- 家庭防災員さんと協力し状況把握
- 要援護者の把握



防犯・見守り・支えあい

いざという時、頼れる人を!

- 階段ごとの普段からの見守り活動
- 日頃のちょっとしたお手伝い
- 食事会、高齢者サロン
- 訪問による安否確認
- ひまわりホルダーの活用
- 普段からの子どもの見守り(学援隊など)
- 防犯パトロール
- 地域のお店などと一緒に見守り
- 移動販売時の見守り
- お渡し会の開催
- 班集会や階段での見守り・支えあい
- 障がいのある人や家族との交流機会の創出



~こうした素敵な取組を未来へつないでいくために、そしてこれからも“みんななかよく 明るいのぼ”であり続けるために~

担い手の確保

みんなで無理なく楽しく活動しよう

- あいさつ・声かけで顔なじみを増やす
- 今ある活動に参加して知り合いづくり
- 働きながらでも子育てしながらでも気軽に参加できる活動づくり
- 小中学校と連携し、子どものころからの地域活動への参加の働きかけ
- 若者グループと連携した行事開催
- 誰もが参加しやすい工夫



国際理解の促進

出身地の違いを越えて、住民同士が対話によって理解しあい、つながりあう地区へ

- 国際理解を育む

